

タムラ マサヒロ  
田村 正博  
法学部・教授  
法学士／京都大学

主な研究業績

- 著書『全訂警察行政法解説』（単著）2011年
- 論文「犯罪捜査における情報の取得・保管と行政法的統制」高橋則夫ほか編『曾根威彦先生・田口守一先生古稀祝賀論文集下巻』（成文堂、2014年）
- 独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターの「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」プロジェクトに、警察調査グループリーダーとして参加。成果の一つとして、「警察組織の行動の特性と他機関連携のための施策について」早稲田教育評論26巻1号がある。
- 国際犯罪学会第16回世界大会（2011年8月）におけるフォーラム「少年非行防止・多機関連携と日本の秩序」にパネリストとして参加（警察政策（警察政策学会編）第14巻に発言が収録されている。）

### 研究テーマ

## 警察における情報の収集保管に関する行政法的統制の在り方～他機関連携の場合を中心として

### 概要

警察組織における情報の収集保管について、実情に即した行政法的統制の在り方を探求し、提言することをめざしている。

警察の情報の収集保管に関しては、個人情報保護上の問題が指摘されているが、犯罪捜査目的である場合には、個人情報保護法の規律が実質的にほとんど及んでいない。同時に、刑事訴訟法の規律も及んでおらず、裁判統制も実質的に機能しにくい。意義のある統制を構築するには、実態を十分踏まえた論議が求められる。

この観点から、外からのアプローチがある程度可能な他機関との接点の場面における警察の情報交換を対象にして、実態を調査することとしている。

具体的には、警察が非行少年の立ち直り支援などにおいて、他の行政機関等と連携する場面における情報交換（警察の側からすれば情報の取得と提供）に関して、連携が求められる事情と現実の連携状況を明らかにした上で、その効果的実施の確保と個人情報保護との調和点を、行政法的統制、取り分け公安委員会による統制の深化の中に見出すことに努める。

### 応用分野

福祉 子どもをめぐる問題に対応する行政機関間連携  
地域 警察を含めた行政機関の統制